授業方法について，独自に工夫している点と，アンケート結果を受けての改善点【人文社会学系】
アンケート回答者がオンライン授業が導入されてから少ない傾向にあるので，この点を先ず改善して声なき声を拾うようにしたい。地誌概説で難しいという声が1名からあった。コロナ禍で受講生が多いという点からオンデマンド型形式であったことが大きいと考える。昨年度の反省を踏まえ，今年度のものは毎時間新たに再録したものであったが，この点について再考し，次年度対面式に戻った場合に備えたい。
アンケート結果を見た全科目に関し、独自な工夫というほどのものはなく、それでまずまずの反応なのだから、現状維持でいいように思う。
演習形式の授業では、教員が発表担当者と時間をかけて打ち合わせ、また働きかけることによって、内容の理解が深部に及んでから臨ませることを心掛けている。他の受講者にも能動的に関わらせるため、発問の準備に特に工夫を施させている。それらにより明らかに授業の活性化につながっている実感がある。 講義形式の授業では関心を持ちにくい受講者がいることがアンケートの結果からうかがえる。それに対しては、なぜそれを取り扱うのか、それを理解することが何につながるのかを意識させながら行うことで、受講者自身に問いが浮かび、授業内で解決できる循環が生まれるように工夫したい。
〈工夫〉 〇1コマ約50人の学生をA･Bの2グループに分け、遠隔授業(学習指導案作成)と対面授業(模擬授業による授業実践)をずらして、交互に行ったこと （例)Aの遠隔週は、Bは対面 〇全員が教材研究に基づいて、前週に学習指導案を作成し、次週の模擬授業により追体験できるようにした 〇遠隔授業により「まなびネット」に提出された指導案やレポートは、対面授業日前までに全員にコメントを返した ⇒ アンケート結果によれば、学生の意欲に繋がったようである 〇対面授業の際、遠隔授業で提出された指導案やレポートの中から、工夫された2～3人のものを印刷・配付した ⇒ さまざまな気づきに繋がったようである 〈改善〉 〇模擬授業は、40分程度を設定し、学生による振り返りや指導講話等を合わせて、90分1コマとしていた。しかし、模擬授業を多くの学生が経験したいとの意見もあり、1回の模擬授業を展開部のみの20分程度に設定し、2倍の学生が行うなどの工夫も考えたい。 〇教材の捉え方や教材研究の仕方等も押さえ、より実践的な授業を計画したい
遠隔授業になったことで、学生の意欲が低下しないように、対面授業よりも、個別に丁寧にフィードバックすることを心がけた。その結果、勉強熱心な学生は、時間に縛られずに各課題にじっくり取り組み、従来の対面授業よりも深く理解し、力もついたように思う。
卒業論文の演習なのに、「問1」の「どちらともいえない」が2人（29％）について改善していきたいと思う。
オンライン授業には賛否両論あった。他の教員と二人で分担して授業したことは好評だったようだ。文章の意見にもあったように、教える側からの視点で言語や文学を見直してもらいたいと考えている。
教育実習前の模擬授業ということもあり、毎年熱心に取り組んでいる。今年のアンケートで、「生徒の主体性を引き出すといいながら、高圧的に言い方」云々という私に対する意見が1件あった。「高圧的」という意味がどのようなものか判然としないが、主体性を引き出すということは、生徒の主体性に任せる、指導を控えるということとは違うことを理解していただきたい。また、ぜひとも理解しておいてほしい大事なこともあり、それを強調することが「高圧的」と受け取られたものと判断している。「高圧的」と片付けてしまわないで、どうしてそのような言い方になっているのか、文脈を把握して状況に合わせた行動をとることを心がけてほしいと思っている。来年からは「高圧的」と受け取られないようにしたい。
4年生前期の授業なので、採用試験や就職活動、および卒業論文の準備で忙しいと思って、自宅での学習の依存度を少ないようにしているが、「問2」のことをふまえるなら、もう少し自ら関連項目について調べる機会を作ってもいいかもしれないと思った。

学生からの指摘を真摯に受け止めて、授業準備をこれからも進めたいと思います。
遠隔では、いろいろと考える要素があることがわかりました。

学生に的確に伝えられた内容があることが分かり、ほっとした面がある。
コロナ禍の下で、学生たちに伝えられることを、自分も増やしていきたいと考えている。

学部4年生の指導法の授業であるため、これまでのC1からCⅢの学びを総括し、次年度直面するかもしれない実際の学校現場を想定して、例えば「この場面ではCⅡで学んだ●●という知識を活用すれば、適切な教育を行うことができるのではないか」というような学びが得られるような展開を考えていました。
しかし、各グループ内で検討をする時間を取ることはできたものの、「全体でディスカッションをする時間」を多く取ることができなかったことから、グループ内で出たであろう疑問点に対して、より多くの視点からその疑問点にアプローチをすることができなかったように思います。その点については、授業を運営する立場として、時間管理の不備を申し訳なく思います。
次年度は、この点の改善は考えたいと思います。
方向性としては、翌年学校現場で働く際に生かすことのできる学びが得られるという視点は継続しつつ、これまでの学びをより活用できるような授業内容を考えていきたいと思います。
ありがとうございました。

遠隔授業でテキスト内容をおさえ、続く対面授業で演習を行うという形式としました。
ほぼこれらの往復で完結をする授業となってしまったことが、履修をしてくれた学生さんたちに、さらなる学びの場を提供することにならなかったのではないかと反省しています。学生のみなさんから興味関心を引き出し、授業外においても「調べてみたい」という思いを持っていただくことができるような授業にしなければならないと、あらためて思いました。
授業内容と教科の特質上、技能練習、特に本科目ではSpeaking（といいましても音読のレベル）を行う必要があります。これらを対面授業の前半で行わせていただきました。
ただテキストの英文を音読するだけでは、本科目のテキストの価値としてもったいないと思いました。そのため、目の前に児童がいる状況を想定し、テキストの英文を児童に伝えるという想定で音読をしてもらうこと、そして、その様子を録画してもらうことを課題として課しました。学生さんたちには緊張感を与えてしまったかもしれませんが、アンケートの回答を拝読し、よかったようであったことにほっとしています。
次年度は、感染症による教室への入室制限が解除されるかもしれません。すると、それに向けた改善をする必要があります。まなびネットを活用して、授業の前後において効果的な学びを得てもらうことができるような資料を作成していきたいと思います。

遠隔授業では、「授業者の顔は見えないまでも、声だけは届けたい」「テキストと音声を通して、『ラジオ講座』のような授業が展開したい」と考え、それを行ってきました。録音が聞きづらい等があれば、学生のみなさんに申し訳なく思います。
指導法という科目の性格上、「場面指導」や「模擬授業」を行う必要がありました。
しかし、本学は指導法の履修学生が多いことから、一人一人に十分な模擬授業を行ってもらう時間がありません。そこで、iPadに「場面指導」や「模擬授業」を録画してもらうという方法を考えました。
また、今後学校現場では、教師も子供もPCやタブレットを使用する機会が増えることや、教師がデジタル教材を使用して授業を行う機会が増えることが考えられます。そこで、iPadを活用することで履修者全員に小学校外国語のデジタル教材にふれて欲しいと考えました。
授業者である私のこういったねらいは、学生のみなさんにとってはどのように受け取っていただけたかは分かりませんし、まだまだ改善の余地はありますが、ほぼ、計画通りできたのではないかと思っています。
楽しんで授業を履修できたという学生さんがいるようで、大変うれしく思いました。
ただ、指導方法を知り、指導技術を高めることを目的とした授業であったため、（理論的な）知識の理解を深めるという内容の授業ではなかったことから、知的好奇心をくすぐるような時間とはならなかったのではないかと思います。その点、満足できない学生さんがいましたら、申し訳なく思います。
小学校における「これからの外国語の授業」を経験することで、授業のイメージをつかんでくれることができればよかった、そう思います。

【工夫している点】
　遠隔授業の形式にしたため、音声付きPowerPointのファイルを配布するオンデマンド型の授業を実施した。
　少ない回数の授業で、東アジアの歴史全般を扱う必要があるため、要点を絞り、的確に流れを把握できるように授業内容を精査した。また毎回、まなびネットで受講生からコメントを回収し、確認に努めた。またTeamsのチャット機能を利用し、アナウンスを行い、質疑応答を受け付けた。

【アンケート結果と改善点】
　問1については「強くそう思う」が27%、「ややそう思う」が49%であり、問2については「強くそう思う」が32%、「ややそう思う」が35%と、おおむね積極的な学びが引き出せたように思う。自由記述にも、好意的なものが見られたが、対面式を望む声や、PowerPointの視聴だと眠くなるという声があった。また、コメントシートの提出の形式について、複数回のアナウンスを行った上で、書式を守れていないものを欠点としたが、これについて厳しすぎる、という声があった。ほかにも、日本史しか履修していなかったため、世界史の内容はわかりにくい、という声も複数あった。
　改善点としては、まず次年度以降、対面式の講義を復活することも検討したい。また、世界史未履修の受講生にも理解しやすいよう、補足的な説明（配布資料の注記や画像など）増やすことも考えたい。

【独自に工夫している点】
　歴史資料（漢籍）を講読する基礎的な能力を身につけるため、あえて二次史料を題材とし、受講生には原典史料の調査と照合、そして関連問題を独自に掘り下げて検討することを求めている。また、初学者が取り組みやすいよう、最初に教員が実例を示し、基本的な情報や方法を詳しく伝授すること、受講生が複数人のチームで取り組めるようにしている。Teamsも活用し、出席者がアップした資料を相互に共有できるようにしている。

【アンケート結果と改善点】
　問1・問2ともに、回答を寄せた受講生の100%が「強くそう思う」であった。また1名からは「大変でしたが、史料を読み解くのは非常に面白かったです。途中から楽しくなってきてほどほどのやめ時を失いました。ありがとうございました。」というコメントがあった。調べ学習と発表・討論は大変だが、積極的に取り組んだ受講生には、かなりの充実した学びになったと思われる。
　ただ、受講生の取り組みの姿勢に、かなりの個人差が認められたことも事実である。受講生の中には、同じ班の他の学生に任せきりになっている学生もいたかも知れない。そうした学生に対し、どのように学びを促すか、また積極的に取り組んでくれた学生をどう評価するか、が今後の課題である。個別の取り組みをきめ細かく評価できるように心がけたい。

【工夫している点】
　学生の興味関心が高く、社会科の内容にも関わるテーマを選択し、いくつかのトピックについて最新の史料状況・研究成果を踏まえた講義を行った。要点をPowerPointや板書で示した上で、史料や重要論文は別途配布し、受講者が自身でも検討が可能になるよう配慮した。これにより、個別の知識の習得のみならず、歴史的な方法論や考え方を習得できるように配慮した。また一方的な知識の伝達にならないよう、コメントシートの回収も実施した。

【改善点】
　アンケート結果では、問1について「強くそう思う」が29%、「ややそう思う」が57%であり、問2について「強くそう思う」が14%、「ややそう思う」が57%であり、おおむね好評であったかと思われる。また、1名からは「自分で理解するには難しいところを、わかりやすく資料を交えて教えていただいたので、非常におもしろく内容を学習することができました」という肯定的なコメントが寄せられた。ただ、「強くそう思う」の数値には改善の余地がある。これを上げるためには、受講生が自ら学びを深められるようにすることが必要であり、その契機をどのように提供するかが課題となる。コメントに対するフィードバックの強化や、受講生の報告・発表の機会を設けることも検討したい。

S科目(1)とS科目(2)については、扱った問題がややむずかしかったかもしれないと思ったが（そして、そのような学生からの反応もあったが）、アンケートにはその点は反映されていなかった。
FS科目については、好意的な評価もあったが、他方で、授業が一方的であった（双方向でなかった）とか、もっと「大学にまつわること」（大学での勉学のやり方とか、大学で学ぶことの意義とか、そういうことか？）を扱ってほしかったという声があった。これらの意見を受けて内容と形式の双方において来年度は改善を図っていきたい。

新型コロナウィルスの影響もあるが、動画と対面のバランスが難しいと感じた。そのため、学生とよく相談して、今後の授業方法について検討していきたいと感じた。
授業では、知識のみならず、ものの見方や考え方を身につけられるようなヒントを提示することを心掛けている。地理学系の授業は、地図や写真、動画など、目に見える資料をたくさん用意することが重要である。 アンケート結果によれば、おおむね授業に対する評価は高かったように思われるが、授業内容を理解するのみならず、それによって「行動」まで促すことはいささか難しいようである。今後は、その点をもう少し意識して、授業が行動へとつながるようにさせたい。 100名を超える授業では、学生の私語がうるさいなど、静穏な授業環境に努めたい。
「教育法」の授業なのでできる範囲で対面授業を行いました。 遠隔授業で行う場合は、説明を丁寧にし、学生の提出したレポートを毎回丁寧にまとめて、全体にフィードバックするようにしています。 課題の内容（分量）は、これまでの遠隔授業と大差なかったと思うのですが、今回は「多い」と感じた学生がこれまでよりも多かったようです。選択している学生さんの層（学部学科、学年）によっても差があるように感じますので対応していこうと思います。 後期は対面授業の回数を少し増やしました。もっと自由に対面ができるようになるとよいです。
S科目では、できる限り学生が主体的に取り組むことができるように示範の機会を与えたり、気づきを大切にした実技を行ったりした。 教科書を事前に読ませる指示をしなかったので、授業に取り組む姿勢に差が感じられた。 S2科目は遠隔授業だったので、提出された課題（5回分）にはコメントを付けて返信した。 まなびネットの授業は、内容が理解できていない場合に解説できない不自由さがある。次に生かすことができるように、パワーポイントの内容を改善することができなかった。
工夫点 ・ワークシートの工夫 ・他学生の解答例の提示 ・便りの発行 改善点 ・適切なフィードバック ・質問を書き込めるワークシートの工夫
遠隔で行った授業においては、出席認定に必要なワークシートの提出に対してフィードバックを行うこと、質問・疑問にできるだけきめ細かく対応することを心がけた。 アンケート結果を見ると、自分のペースで学習を進められる、分からなかったところを繰り返し確認できる、などの点を遠隔授業の利点として挙げているものが見受けられた。今後対面授業を行う際には、このような要望があることを意識しながら授業の組み立てを考えていきたい。
S科目の授業においては、実際に地域の学校生徒の作文を添削する実習を行ったのは、新鮮味を出すだけでなく、教員としての指導に役立ったのではないかと思います。

教員・学生とも遠隔授業（オンデマンド）にも慣れてきたこともあり、授業内容特に課題を可能な限り授業形態に合わせて最適化することで、昨年度よりはこぼれ落ちる学生も少なく、学生も授業参加の実感を得る（やりがいを感じる）ことができたようである。 具体的には、原典講読的な課題を出す授業については、オンデマンドでは早送りをして聞いたり、くり返し聞いたりすることが容易であるため、模範解答・解説の情報量をかなり多くした。その一方で、昨年度は予習段階と解答提示後の二回、提出をさせていたのを提示後のみにし、ファイルの作成・アップロードの手間を半減させた（自分のチェックも半減した）。 一方、語学の授業では、昨年度の後期には、発音の仕方を安全に勉強するには他に方法がなかったため、限定的にteamsを使ったが、本年度はオンデマンドのみにした結果、学生からは昨年度と比較して会話練習を望む声が出た。当然とは思うが、蔓延防止や緊急警戒宣言の出ている情況で積極的な発話を前提とした授業を対面で行うことは今から考えても不可能だったと思われる。
講義の授業であっても、できるだけ討論の時間を設けている。その際、事前に課題を出して、そのレポートを準備させておき、それを踏まえて意見交換をさせるように心掛けている。オンラインの場合は、関連するサイト等へのリンクをし、独自にリサーチができるように配慮している。 S科目（1）以外は回答率が五割を切っているので判断が難しい面もあるが、担当したすべての授業において問1と問2への回答の合計がが70％～80％であり、その意味では概ね授業の目的を達成していると考える。 F科目の個別の記述において、オンラインであるのに課題が多すぎるとの指摘があったが、オンラインは対面より楽であるべきと（？）考えているようなので、事前にそうした誤解が生じないようにしっかり説明する必要があった。今後の改善点である。
結果はおおむね良好と捉える。 よくなかった点として遠隔でも可能な部分は遠隔がよいとの回答があった。改善すべき点として考える。
問題点の把握ができるよう、分析の仕方などを示唆することを心がけている。演習の発表後にも関心が持続するよう、さらに工夫していきたい。
対面では、実物教材を持ち込んだり、発表形式や模擬授業を実施したりと対面でしかできないことをできるだけ重視した。同時にオンデマンドも用意し、「ハイブリッド型」を心がけた。